久木久一教授の退職を惜しむ

実　方　正　雄

久木久一教授は，昭和42年3月末をもって，停年退職制により，惜しまれながら本学を去った。久木教授が在職したのは，まさに36年，したがって，その生涯の重要な大部分を，本学における研究と教授のために捧げたものだといっても過言ではない。これは，まったく，同教授の本学を熱愛する姿勢の結果であったと思う。旧制の大学では，教授はその生涯を，特定の大学で過すというのが，むしろ一般的な在り方であったといってよい。これに反し，地方の旧制専門学校・旧制高等学校などでは，優秀な人材ほど移動の激しかったのが実情であった。それを考えると，久木教授は，優れた学才を持ちながら，高商時代から商科大学時代を通じて，一筋に本学に勤務せられたのであるから，その熱意に対し，本学に職を奉ずる私達は，深い感銘を覚えると同時に，厚い感謝の意を表せざるをえない。

久木教授の専攻分野は，保険論である。教官の手不足から交通論の講義も担当して頂いたこともあるが，精力的に開拓され，優れた成果を発表されたのは保険論の分野であって，その方面の専攻者は非常に少ないと聞く。それだけに，同教授の退職は，本学にとって惜しみても余りあることである。商法の分野でも，保険法・海商法を専門とする商法学者は少なく，私なども，会社法・手形法に精力を集中し，保険法・海商法を充分に研究する余力はなかった。そのため同教授の保険に関する深い学識から，何かと御教示を頂く機会のなかったことを残念に思っている。

いずれにしても，今回，久木教授の学恩を偲んで，退職記念論文集が刊行されることになったことは，非常に喜ばしいことである。同教授の今後の御健斗をお祈りすると同時に，執筆者諸氏のたゆまざる御精進を期待してや

まない。それが，同教授の学恩にむくいるゆえんだからである。